



府
縣
制

明治二十二年五月



114
A 2612
3

府縣制

第一章 總則

第一條

府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ內務大臣之ヲ定ム但特

ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

府縣境界ニ當ル郡市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ府縣境界モ亦自

ラ變更スルモノトス

國界ノ變更又ハ國界ニ當ル郡市町村ノ境界ヲ變更スルトキ亦本條

ノ例ニ依ル

第二條 府縣内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其府縣住民トス

第三條 府縣ハ其府縣有財產及營造物ノ管理并府縣稅徵收方法ニ關

シ規則ヲ設ケ三圓以下ノ罰金ヲ付スルコトヲ得其罰金ハ府縣ノ收

入トス

規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス

規則ハ府縣ノ公告式ニ依リ之ヲ告示ス可シ

第二章 府縣會

第四條 府縣會ハ府縣内郡市ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

郡市ニ於テ選舉ス可キ府縣會議員ノ定數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但各郡市ヲシテ少クトモ一人ノ議員ヲ選舉セシム可シ

東京市京都市大阪市ニ在テハ特ニ府會議員ヲ選舉セス其市會議員ヲ以テ之ニ充ツ但勅令ヲ以テ其府會ニ出席スヘキ議員ノ數ニ制限ヲ付スルコトアル可シ

第五條 府縣會議員ノ選舉ハ市ニ在テハ市制ニ從ヒ市會及市參事會會同シ市長ヲ會長トシテ之ヲ行ヒ郡ニ在テハ郡制ニ從ヒ郡會ニ於テ之ヲ行フ

第六條 市制町村制ノ規定ニ從ヒ府縣内市町村ノ公民中選舉權ヲ有

シ一年以上直接國稅十圓以上ヲ納ムル者及郡制ノ規定ニ從ヒ大地主中選舉ニ依ラスシテ自ラ郡會議員ト爲ル者又ハ自ラ其選舉ニ加ハルコトヲ得可キ者ハ總テ府縣會ニ被選舉權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲メ市町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同府縣内ニ在リ且ツ他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍ホ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス

其府東京府ハ警視廳トモ縣ノ官吏及有給吏員神官僧侶其他諸宗教師ハ府縣會議員タルコトヲ得ス

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

第七條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ毎四年其全數ヲ改選ス

東京府京都府大阪府ニ在テハ其市部議員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ從フ但府會ニ於テ解散ヲ命セラレタルトキハ市會モ亦自ラ解散ヲ命セラレタルモノトス

解任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

此法律中東京府京都府大阪府々會ノ市部議員トアルハ東京市京都市大阪市ノ市會議員ヲ謂ヒ郡部議員トアルハ東京市京都市大阪市のヲ除キ其他ノ部分ニ屬スル議員ヲ謂フ

第八條 議員中闕員アルトキハ遅クモ六ヶ月以内ニ補闕選舉ヲ行フ可シ若シ府縣會開會ノ時期ニ切迫シ又ハ開會中ニ在ルトキハ可成改選議員ヲシテ其會議ノ時日ニ及ハシムルコトヲ力ム可シ
補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第九條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ可シ其告示ハ遅クモ選舉ヨリ十四日前ニ之ヲ發ス可シ

第十條 選舉ヲ終リ當選人ノ定マリタルトキハ郡市長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知シ及ヒ當選人ノ氏名ヲ府縣知事ニ報告ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ七日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立テ并關係ノ郡市長ニ通知ス可シ

一人ニシテ數ヶ所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應シ何レノ當選ヲ辭ス可キコトヲ府縣知事ニ申立并關係ノ郡市長ニ通知ス可シ

第十一條 前條ニ依リ郡市長ニ於テ辭選ノ通知ヲ受取リタルトキハ順次其次點者ヲ以テ當選人トシ前條第一項ノ手續ヲナス可シ數ヶ所ノ選舉ニ當リタル者期限内ニ前條第二項ノ申立ヲ爲サ、ルトキハ總テ其選舉ヲ辭スルモノト見做シ府縣知事ヨリ其旨ヲ關係ノ郡市長ニ達シ郡市長ハ前項ニ依リ當選人ヲ定ム可シ

第十二條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ

日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

第十三條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコト發覺スルトキハ其當選ハ無効トス但此場合ニ於テ就職前發覺シタルトキハ次點者ヲ以テ當選トシ就職後發覺シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フ可シ

當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員タルノ資格ヲ失フモノトス此場合ニ於テハ補闕選舉ヲ行フ可シ

第十四條 府縣會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ府縣知事ニ通知スルコトヲ得此場合ニ於テ知事ハ三日以内ニ相當ノ處分ヲ爲スヘシ但特ニ調査ヲ要スル事情アルトキハ其調査ニ必要ナル時日ハ之ヲ除クコトヲ得

第十五條 前條ノ通知ヲ受ケ知事ニ於テ之ヲ無資格ト爲シタルトキ

ハ其無資格トセラレ之ニ不服アル議員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得此場合ニ於テハ無資格トセラレタル日ヨリ二日以内ニ其出訴ノ趣ヲ府縣知事ニ通知ス可シ

本條ノ出訴ノ爲メニ知事ノ處分ノ執行ヲ停止セス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 第九條乃至第十五條ノ外選舉ニ關シ必要ナル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 府縣會ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ此法律ニ準據シテ府縣ノ公共事務ニ關スル事項其他法律命令ニ依リ其權限内ニ屬スル事項ヲ議決スルモノトス

府縣ノ公共事務トナスモノ左ノ如シ

一 府縣稅備荒儲蓄金其他府縣收入ノ賦課徵收及管理ニ關スル事項

- 二 府縣有ノ土地其他ノ財産ノ管理ニ關スル事項
 - 三 府縣會議諸費ニ關スル事項
 - 四 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル衛生教育勸業又ハ慈善ノ事業及營造物ニ關スル事項
 - 五 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル道路河川港灣橋梁等ノ土木工事ニ關スル事項
 - 六 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル廳舎監獄等ノ建築修繕ニ關スル事項
 - 七 國界府縣界其他諸種ノ建標ノ類ニ關スル事項
- 第十八條 府縣會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ
- 一 新ニ第三條ノ規則ヲ設ケ並改正廢止スル事
 - 二 府縣ノ歲入出豫算ヲ定ムル事
 - 三 決算報告ヲ認定スル事

- 四 府縣稅ノ賦課徵收法ヲ定ムル事
 - 五 府縣有不動産ノ賣買交換讓渡讓受并質入書入ヲ爲ス事
 - 六 府縣知事又ハ府縣參事會ニ委任シタルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
 - 七 府縣有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
- 第十九條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ
- 府縣會ハ其全府縣又ハ一部分ノ公益ニ關スル事件ニ付府縣知事又ハ內務大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第二十條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可カラサルモノトス
- 第二十一條 府縣會ハ毎定期改選後又ハ解散後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互選ス可シ其任期ハ議員ノ任期ニ從フ
- 議長副議長共ニ故障アルトキハ假議長ヲ互選スヘシ

第一項及第二項ノ選舉ヲ爲スニ付テハ出席議員中ノ年長者ヲ以テ議長ト爲ス可シ若シ年齢ニ依リ難キトキハ其同年者ニ於テ抽籤セシム可シ

第二十二條 府縣知事若クハ特ニ知事ノ委任ヲ受タル府縣ノ官吏若クハ吏員ハ府縣會會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ發言請求ノ順序ニ拘ハラス何時ニテモ之ヲ許ス可キモノトス

第一項ノ委任ヲ受タル官吏又ハ吏員ハ府縣會ノ承諾ヲ經タル場合又ハ請求ニ依リタル場合ヲ除クノ外ハ一議案ニ付キ二名ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十三條 府縣會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク可シ其會期ハ三十日以内トス其他必要アルトキハ其事件ニ限リ臨時會ヲ開ク

コトヲ得其會期ハ毎回七日以内トス

府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス其招集狀ヲ發シ并會議ノ事件ヲ告知スルハ會議ノ十四日前タル可シ但急施ヲ要スル場合ニ限リ三日前ニ於テスルコトヲ得

府縣會會期ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第二十四條 府縣會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付開會再回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限リニアラス

第二十五條 府縣會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十六條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニアラザレバ府縣會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十七條 府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ郡制第十九條第四ヨリ

第七ニ至ル規定ニ依ル可シ

第二十八條 府縣會ハ議員ノ互選ヲ以テ七名以下ノ決算報告審査委員ヲ置クコトヲ得

前項ノ審査委員ハ審査ノ爲メ必要ナル諸帳簿及證書類其他會計ノ現況ヲ檢閱スルコトヲ得

第二十九條 府縣會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニアラス

一 議長又ハ議員十名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルト

キ

二 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用非スシテ其可否ヲ決ス可シ

傍聽ノ爲メ入場スルコトヲ得ルハ議員又ハ府縣廳官吏若クハ府縣吏員委員ノ紹介アル者ニ限ル

第三十條 議員ハ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 議員ハ他人ニ對シ無禮ノ語ヲ用非及人身上ノ誹譏ニ涉ル言論ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ并延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議事日程ハ府縣知事ヨリ提出ノ議案ヲ先ニスヘシ但他ノ議事緊急ノ場合又ハ議事ノ都合ニヨリ他ノ議事ニ涉ルノ餘暇アル場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十三條 會議中此法律若クハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシム可シ若シ強暴ニ涉ル者アルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ處分セシムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第三十四條 議員中議場ノ秩序ヲ紊ルコト數回ニ及フ者アルトキハ議長又ハ議員ノ發議ニ依リ府縣會ノ議決ヲ以テ七日以内一定ノ時間出席ヲ停止スルコトヲ得

第三十五條 會議中傍聽席ニ於テ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官ニ命シテ之ヲ處分セシムルコトヲ得
傍聽席騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第三十六條 府縣知事若クハ特ニ其委任ヲ受タル官吏吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ及議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ

喚起スルコトヲ得

第三十七條 第三十三條第三十五條ニ依リ議長ノ命ニ應セシムル爲メ府縣知事ハ每會期其府縣ノ警部中ニ就キ一名若クハ二名ニ議場掛專務ヲ命スヘシ但其警部ハ傍聽ヲ禁シタル會議ニ在テハ議場内ニ留マルコトヲ得ス

第三十八條 府縣會ニ三名以下ノ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム但其人員ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル
書記ハ議長之ヲ選任ス

第三十九條 府縣會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ顛末并出席議員ノ氏名ヲ記録セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前府縣會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置ク可シ

第四十條 府縣會ハ議事細則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ認

可ヲ受テ之ヲ施行ス可シ

第三章 府縣參事會、吏員及委員

第四十一條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ五名以上八名以下ノ名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス其人員ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル

東京府京都府大阪府ニ在テハ郡部議員ニ於テ互選スル名譽職參事會員ヲ五名以上八名以下トシ仍ホ東京市京都市大阪市ノ市會名譽職參事會員ヲ以テ府會ノ名譽職參事會員ニ充ツ

第四十二條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ニ於テ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ前條名譽職參事會員ノ外其府縣廳ニ奉職ノ高等官二名以下ヲ以テ參事會員ニ加フルモノトス

第四十三條 參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長ト爲ス議長故障アルトキハ書記官之ヲ代理ス知事書記官共ニ故障アルトキハ會員ニ於テ假議長ヲ互選スヘシ

第四十四條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ其議員中ヨリ之ヲ互選ス

府縣會ハ名譽職參事會員ノ補充員四名以下ヲ互選シ闕員アルトキ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第四十五條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

名譽職參事會員ノ補闕選舉ハ次回ノ府縣會ニ於テ之ヲ行フモノトス但定數三分ノ一以上ノ闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二ヶ月以内ニ臨時其選舉ヲ行フ可シ

東京府京都府大阪府ニ在テハ郡部名譽職參事會員ニ對シ前項ヲ適用スルモノトス

此法律中東京府京都府大阪府府會ノ市部名譽職參事會員トアルハ東京市京都市大阪市ノ市會名譽職參事會員ヲ謂ヒ郡部名譽職參事

會員トアルハ郡部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ謂フ

第四十六條 府縣參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 府縣會ノ權限内ニ屬スル事項ニシテ其委任ヲ受タルモノヲ處理スル事

二 府縣會ノ權限内ニ屬スル事項ニシテ臨時急施ヲ要スルモノ又ハ輕微ノ事件ニシテ知事ニ於テ臨時ニ府縣會ヲ招集スルコトヲ要セスト認メ出席名譽職參事會員ノ過半数ニ於テ之ニ同意シタルモノアルトキ府縣會ニ代テ議決ヲ爲ス事

三 府縣有財産又ハ營造物ノ管理ニ關シ必要ナル議決ヲナス事

四 臨時必要アルトキ府縣ノ出納ヲ檢査スル事

五 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ニ付其次第順序ヲ定メ其他必要ナル議決ヲナス事

六 總テ府縣ノ公共事務ニ關シ意見ヲ述フル事

七 府縣知事其他官廳ノ諮問アルトキ其意見ヲ述フル事

八 其他總テ法律命令ニ依テ委任セラル、事務ヲ處理スル事

第四十七條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若シ會員半数以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集ス可シ

第四十八條 府縣參事會ハ議長及名譽職參事會員半数以上出席スルトキハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得但第四十三條ニ依リ假議長ヲ互選スル場合ニ於テハ假議長ノ外仍名譽職參事會員半数以上ノ出席ヲ要ス

府縣參事會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名ス可シ

第四十九條 府縣參事會員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上

ニ關スル事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ規定ノ爲メ出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ臨時ニ府縣會議員中該事件ニ關係ナキ者ヲ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第四十一條ノ定數ニ滿タシムヘシ但補充員ヲ置タル場合ニ於テハ補充員ヲ以テ先ツ之ニ充ツ可シ

第五十條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテニシテニ府縣以上ノ郡又ハ市町村ニ交渉スルモノアルトキハ內務大臣之ヲ決定ス

第五十一條 東京府京都府大阪府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノハ其郡部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其東京市京

都市大阪市外ノ市町村若クハ郡ニ關スルモノハ市部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

市部參事會員及郡部參事會員ニ於テ會同議決スヘキ事件ニ付テハ市部名譽職參事會員ハ郡部名譽職參事會員ノ定數ト同數以下ヲ限リ出席スルモノトス但會同議決ニ出席ス可キ者ハ市部名譽職參事會員ニ於テ豫メ其互選ヲ以テ之ヲ定メ置ク可シ

第五十二條 府縣知事ハ法律命令ノ規定ニ從ヒ府縣一切ノ事務ヲ指揮監督シ府縣會ノ議決ヲ施行シ及府縣參事會ノ議決ニ準據シテ府縣有ノ財産及營造物ヲ管理シ并府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

府縣知事ハ外部ニ對シテ府縣ヲ代表シ府縣ノ名ヲ以テ往復シ若クハ公布スル總テノ文書ニ署名捺印ス但府縣ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔ス可キ證書及委任狀ニハ知事ノ外參事會員二名以上之ニ署

名捺印ス可シ

前項ノ文書中府縣會又ハ參事會ノ職權ニ屬スル事項ニシテ其議決ヲ經タルモノハ總テ其旨ヲ記入スヘシ

第五十三條 急施ヲ要スル場合ニ於テ府縣參事會ヲ招集スルノ暇ナ

キトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事項ヲ專決處分ス

ルコトヲ得此場合ニ於テハ次回ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告ス可シ

第五十四條 府縣ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ費用ヲ以テ府縣有ノ

財産又ハ營造物ノ管理若クハ土木工事ニ必要ナル有給ノ府縣吏員

ヲ置クコトヲ得但其任免監督ハ總テ府縣官吏ニ準シ府縣知事之ヲ

掌ル

府縣吏員ノ給料手當退隱料及任期ノ類ハ府縣會ノ議決スル所ニ依

ル其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十五條 府縣ハ府縣會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置ク

コトヲ得其選舉又ハ選任ノ方法ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル數人ヲ以テ委員ヲ組織スル場合ニ於テ委員長ノ選舉又ハ選任ノ方法亦同シ

委員ハ名譽職トス

第五十六條 委員ハ知事ノ監督ニ屬シ府縣公共事務ノ一部ヲ管理シ

又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

第四章 府縣ノ經濟

第五十七條 地方稅及備荒儲蓄金ノ經濟ニ屬スル財産及營造物并備

荒儲蓄金ハ此法律施行ノ日ヨリ府縣ノ所有トス但備荒儲蓄金ノ徵

收儲蓄及支出方法ハ該法ノ規定ニ依ル

第五十八條 府縣有財産及營造物管理ノ費用府縣會府縣參事會及委

員ノ事務費府縣吏員ノ給料退隱料其他諸給與及從來法律命令若ク

ハ慣例ニ依リ并將來法律勅令ニ依リ府縣ノ負擔ト定ムル事件并ニ

府縣ノ公共事務ニ關スル一切ノ費用ハ總テ其府縣ノ負擔トス

第五十九條 府縣ノ各譽職參事會員及委員ハ旅費滞在日當若クハ月手當ヲ給スルコトヲ得但日當ハ一日一圓五十錢月手當ハ一月四十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

府縣會議員ハ旅費及滞在日當ニ限り之ヲ給スルコトヲ得日當ノ額ハ前項ニ同シ

第六十條 府縣ノ支出ハ府縣稅其他府縣ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第六十一條 府縣稅目及其賦課徵收方法ニ關スル規定ハ別段ノ稅法ヲ發布スル迄此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除クノ外地方稅ニ關スル規定ニ依ル

第六十二條 府縣ハ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ其府縣ノ全部若クハ市制施行ノ地ニ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス

第六十三條 府縣内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舖ヲ定メテ營業ヲ爲ス者又ハ一戶ヲ構ヘ三ヶ月以上ニ及フ者ハ土地、家屋、營業又ハ戶數ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限りニアラス

第六十四條 府縣稅ノ賦課ニ付テハ納稅者カ其府縣外ニ於テ店舖ヲ定メタル營業ノ收入ヲ其標準ニ算入スルコトヲ得ス

第六十五條 府縣會ハ各市町村内ニ於テ徵收スル府縣稅賦課徵收ノ細目ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得
前項市町村會ノ議決ハ法律勅令又ハ府縣會ノ議決ニ抵觸スルコトヲ得ス

市町村會ニ於テ府縣會ノ指定シタル期限内ニ其議決ヲ爲サ、ルトキハ府縣參事會ニ於テ其事項ヲ議定ス可シ

第六十六條 營業ノ狀況又ハ收入ヲ標準トシテ賦課スル府縣稅ニ付

テハ知事ノ發議ニ依リ府縣會ノ議決ヲ經テ賦課額調査ノ爲メ其府縣ノ郡市ニ調査委員會ヲ置クコトヲ得

第六十七條 市町村稅免除ノ規定ハ府縣稅免除ニ對シテモ亦適用スルモノトス

第六十八條 府縣ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣内郡市町村ノ土木工事又ハ府縣内ノ教育衛生勸業及慈善ノ事業若クハ營造物ニ對シ補助金ヲ與フルコトヲ得

第六十九條 府縣會ハ町村ニ於テ徵收スル家屋稅又ハ戸數割ノ全部又ハ一部ノ代納トシテ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニ對シ夫役又ハ現品ヲ出スコトヲ許スコトヲ得

第七十條 府縣稅ノ賦課ニ對シ錯誤アリト信スル者ハ賦課令狀ノ交付後三ヶ月以内ニ之ヲ其賦課廳ニ申立ツルコトヲ得但申立ノ爲メ其納稅ヲ拒ムコトヲ得ス

第七十一條 前條ノ申立ヲ爲シタル後其訂正ヲ得ス又ハ其處分ヲ得ルモ之ニ不服アルトキハ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス
第七十二條 府縣稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄一ヶ月當リノ割合ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ其賦課廳ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スルコトヲ得

物件ヲ目的トシ納期ヲ定メテ一定ノ額ヲ賦課スル府縣稅ハ其納期ニ於テ其物件ニ對シ納稅義務ヲ負フ者其額ヲ納ム可シ

府縣稅ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又ハ他人ニ移轉シタル

場合ト雖モ之ヲ還付セス但其義務ノ移轉ヲ受タル者ハ其前納期限ノ終リマテ納稅セサルモノトス

第七十三條 府縣稅ハ各市町村ニ於テ市町村稅徵收ノ手續ニ依リ之ヲ徵收ス可シ但市町村ハ其徵收費トシテ府縣稅徵收額ノ幾部ニ相當スル金額ヲ受クルモノトス其歩合及各市町村ノ配當方法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

府縣稅ノ滯納處分ハ此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除クノ外從來ノ成規ニ依リ郡ニ於テハ郡長市ニ於テハ市參事會之ヲ執行スルモノトス

府縣稅ノ納稅延期ハ特別ノ事情アルモノニ限り府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ同意ヲ得テ之ヲ許スコトヲ得

府縣稅ノ滯納處分ハ身代限處分ノ法ニ準シ先ツ滯納者ノ動產ヲ公賣シ猶足ラサルトキニ不動産ヲ公賣スヘシ

第七十四條 東京府京都府大阪府ニ在テハ府ノ支出ニ充ツヘキ府稅ヲ市部及郡部ニ分賦ス其分賦ノ割合ハ府會ニ於テ之ヲ議決シ內務大臣ノ認可ヲ受ケテ施行ス可シ

前項市部ノ分賦額ハ市ニ於テ之ヲ市ノ豫算ニ編入シ市稅トシテ徵收シ其總額ヲ府金庫ニ納ム可シ郡部ノ分賦額ハ此法律ノ規定ニ依リ之ヲ徵收ス但市部議員ハ其徵收ニ關スル議事ニ參與シ及議決ニ加ハラサルモノトス此場合ニ於テ若シ議長副議長共ニ市部議員ナルトキハ郡部議員ニ於テ臨時議長ヲ互選ス可シ

第七十五條 市制施行ノ府縣ニ在テハ郡廳舍建築修繕費及郡吏員給料旅費ハ市ヲ除キ其他ノ部分ノミヲシテ其負擔ニ任セシムヘシ前項ノ外從來區郡部會規則ニ依リ區郡部ノ經濟ヲ異ニセル府縣ニ在テハ其府縣ノ支出費目中市ト其他ノ部分ト著ルシク利害ノ厚薄ヲ異ニシ均一ノ負擔ニ任セシムルコトヲ得サルモノアルトキハ其

費目ニ限り其一方ノ負擔ヲ増加スルコトヲ得

第一項ノ負擔ニ任セシメ及第二項ニ依リ一方ノ負擔ヲ増加スルハ賦課ノ稅率ヲ増加スルニ止ムヘシ經濟ヲ異ニスルコトヲ得ス但東京府京都府大阪府ニ在テハ前條ノ例ニ依ル

前項ニ依リ稅率ヲ増加スヘキ稅目ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル

第七十六條 府縣ハ其舊債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ府縣住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限り公債ヲ起スコトヲ得

府縣會ニ於テ公債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ募債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ

府縣公債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ募債ノ時ヨリ五十年以内ニ還了ス可シ

歲入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラズ但府縣會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第七十七條 府縣知事ハ毎年其翌年度ニ係ル歲入出豫算表ヲ調製ス可シ但府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算表ハ府縣會ノ議決ニ付スルノ前府縣參事會ノ審査ニ付ス可シ若シ府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ知事ハ參事會ノ意見ヲ豫算表ニ添ヘ府縣會ニ提出ス可シ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定メ并費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 豫算表ハ毎年通常府縣會ノ議決ヲ取り之ヲ內務大臣ニ報告シ并府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示ス可シ

府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シ施行スルモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ經費ヲ定メ連年支辨トシテ之ヲ施行スルコトヲ得豫算表ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ其府縣ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ

府縣會ニ於テ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ其一項ニ依リ之ヲ報告シ并其要領ヲ告示スヘシ

第七十九條 歳入出豫算中豫備費ヲ置ク可シ豫備費ハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ同意ヲ得テ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニシテ臨時已ムヲ得サルモノニ充ツルコトヲ得ルモノトス但府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第八十條 府縣ハ府縣會ノ議決ニ依リ有給ノ收入役一名及付屬ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得收入役ハ府縣參事會ノ同意ヲ得テ府縣知事

之ヲ選任ス其他ハ總テ第五十四條ニ依ル

府縣收入役ハ府縣ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

府縣ニ收入役ヲ置カサルトキハ收入役ノ擔任事務ハ府縣廳ノ會計官吏ニ於テ之ヲ管理ス可シ但其出納及帳簿ハ之ヲ官金ト分別ス可シ

第八十一條 歳入出豫算表ニ依テ定マリタル收入支出ハ府縣知事ニ於テ收支命令ヲ發シ豫備費ノ支出其他總テ臨時ノ收支命令ハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ同意ヲ得テ之ヲ發ス可シ

第八十二條 收入役又ハ其事務ヲ管理スル府縣廳官吏ハ前條ニ準據シタル命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役又ハ其事務ヲ管理スル府縣廳官吏ノ責任ニ歸ス

第八十三條 府縣ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クトモ一回臨時検査ヲ爲スコシ検査ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル高等官之ヲ爲シ臨時検査ニハ府縣參事會員ノ立會ヲ要ス

第八十四條 決算ハ收入役又ハ其事務ヲ管理スル府縣廳ノ官吏ニ於テ會計年度後四ヶ月以内ニ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ之ヲ府縣參事會ノ審査ニ付シ且自己及參事會ノ意見ヲ附シテ次回ノ通常府縣會ノ認定ニ付スコシ
決算報告書并ニ之ニ關スル府縣會ノ議決ハ府縣知事ヨリ之ヲ内務大臣ニ報告スコシ

第五章 府縣行政ノ監督

第八十五條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第八十六條 府縣ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若クハ裁決ヲ受タル日ヨリ二十一日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スコシ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ其裁決ヲ受タル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スコシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得可キ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アルモノ又ハ當該官廳ニ於テ其停止ノ爲メニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此限ニアラス

第八十七條 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スコシ内務大臣ハ之カ爲メニ其行政事

務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ
視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第八十八條 府縣會又ハ府縣參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ
背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ議決
ノ執行ヲ停止ス可シ其公益ヲ害スルニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタ
ルトキハ府縣知事ハ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ直
ニ内務大臣ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ
依テ其執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事ノ處分ニ對シ府縣會
又ハ府縣參事會不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十九條 府縣會ニ於テ議長副議長ヲ選舉セサルトキハ次回ノ會
期ニ至ルマテ府縣知事ニ於テ其府縣ノ歲入出豫算及徵收方法ヲ定
メ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

府縣會ニ於テ參事會員ヲ選舉セサルトキハ次回ノ會期ニ至ルマテ

府縣知事ニ於テ參事會ノ職權ニ屬スル事項ヲ專決處分スルコトヲ得
第九十條 府縣會ニ於テ法律命令ニ依テ府縣ノ負擔ニ屬シ又ハ當該
官廳ノ職權ニ依テ定ムル所ノ支出ニシテ行政上必要ノ費用ヲ議
決セス又ハ議決スト雖其當ヲ得サルトキハ府縣知事ハ内務大臣
ニ具狀シ其指揮ヲ請フコトヲ得

公衆ノ安寧ノ爲メ猶豫ス可ラサル堤防費及公衆ノ交通ノ爲メ猶豫
ス可ラサル道路修繕費又ハ橋梁修繕若クハ架換費其他猶豫ノ爲メ
公衆ノ危嶮ヲ生スヘキ事業ノ費用ハ前項ノ例ニ依ルコトヲ得

第九十一條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其議決ス可キ議案ヲ議決
セス又ハ府縣會ニ於テ招集前正當ノ手續ヲ以テ告知セラレタル議
案ヲ第二十三條第一項ニ定メタル期限内ニ議了セサル場合ニ於テ
其事緊急ニシテ次回ノ會期ヲ待ツコト能ハサルモノアルトキハ府
縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請フコトヲ得但其議決セス又

ハ議了セサル議案歳入出豫算ニ係ルトキハ内務大臣ハ其前年度ノ豫算總額以内ノ額ヲ以テ指揮ス可シ
本條ニ於テ議決セスト稱スルハ緊急ノ處分ヲ要スル事件ニシテ之ヲ否決スレハ直チニ行政ノ支障ヲ生スヘキ場合ニ於テ故意ニ之ヲ否決シタルモノヲモ包含ス

第九十二條 内務大臣ハ府縣ノ歳入出豫算ノ支出費目中府縣ニ於テ負擔スヘカラスト認ムルモノアルトキハ之ヲ削除シ及其府縣ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若クハ削減スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺ス可シ

第九十三條 府縣會ハ勅令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ三ヶ月以内ニ議員ヲ改選ス可シ
前項改選ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦改選スルモノトス但

改選參事會員ノ就職スル迄在職ス可シ
府縣委員ハ府縣會ノ解散ニ依リ改選スルノ限リニ在ラス但改選府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ改選スルコトヲ得
府縣會改選結了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣參事會府縣會ニ代テ之ヲ議決ス可シ

第九十四條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 新ニ府縣ノ公債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ及償還前其募債ノ方法利息ノ定率若クハ償還ノ方法ヲ變更スル事(第七十六條)
- 二 地租四分ノ一ヲ超過スル地租割ヲ賦課スル事
- 三 府縣内直接國稅徵收額百分ノ三十五ヲ超過シテ府縣住民ニ府縣稅ノ負擔ヲ受ケシムル事
- 四 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額

ヲ定ムル事

四十

第九十五條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 罰金ヲ付シタル規則ヲ設ケ及改正スル事 其議決ハ内務大臣ノ認可ヲ要ス

二 府縣有不動産ノ賣却讓渡并質入ヲ爲ス事

三 第七十八條第二項ニ依リ連年支辨ノ議決ヲ爲シ及其年期内ニ其議決ヲ變更スル事

四 第七十五條第二項ニ依リ市若クハ其他ノ部分ノ負擔ヲ増加スル事

第九十六條 府縣吏員ノ懲戒ハ官吏ノ懲戒ニ準シ府縣知事之ヲ行フ但收入役ノ懲戒ハ府縣參事會ノ同意ヲ以テスルヲ要ス

第六章 附則

第九十七條 此法律發布ノ日ヨリ東京市京都市大阪市ニ在テハ内務

大臣ニ於テ直接ニ市ノ行政ヲ監督シ市制中府縣知事又ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ許セル事項ニ付テハ其不服ノ場合ニ於テ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ルモノハ直チニ内務大臣ニ訴願シ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十八條 市制町村制施行ノ爲メニ定メタル直接税間接税ノ類別ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦適用スルモノトス

市制町村制郡制及本制施行ノ爲メ將來ノ租税ニ付直接税ト爲ス可キモノハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス可シ

第九十九條 此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ第九十七條ヲ除クノ外府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第一百條 此法律施行ノ後ハ市制第二百二十二條第三ニ定ムル附加税徴

收ノ許可ハ東京市京都市大阪市ニ在テハ地租七分ノ三、二五(二十
八分ノ十三)及直接國稅滿額其他ノ市ニ在テハ地租ノ附加稅ニ付
テハ其七分ノ一半(十四分ノ一)ヲ超過スル時之ヲ要スルモノトス

第百一條 府縣内ニ在ル島嶼ノ其本地ニ對スル關係ニ付テハ勅令ヲ
以テ特例ヲ設クルコトヲ得

郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出ス可キ府縣會議員ノ選舉ニ關シテ
ハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第百二條 明治十三年四月第十五號布告府縣會議規則明治十三年四月

第十六號布告地方稅規則第三條費目中戸長以下給料旅費浦役場費

明治十四年二月第六號布告明治十四年二月第八號布告區郡部會規

則明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則其他此法律ニ

抵觸スル成規ハ本制施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ

廢止ス

第百三條 內務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令
及訓令ヲ發布ス可シ

